



こんにちは。

ジャパニーズ・ヘルプデスク・ブラジルの渡辺です。

日毎に寒くなってまいります(ブラジルの6月は冬季です)、皆様もお元気でお過ごしであることを願っております。

ブラジルは南半球にあるため、常夏のイメージがあるかと思いますが、サンパウロ州の冬は意外と寒いです。時には一日に春夏秋冬が全部あり、朝晩はとても冷え込み、昼間は暑かったりすることもあります。

【医療情報】

世界保健機関（WHO）が先月、新型コロナウイルス感染症に関する「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の宣言を終了すると発表してから1ヶ月以上経ちました。

現在、ブラジルの医療機関内でもマスクの着用は任意ですが、有症状者や免疫不全者についてはマスクの着用が推奨されています。

また、寒い季節の緊急外来では風邪を引いている患者が多くいるため、マスクの着用が必須となっております。

新型コロナ新規感染者数は現時点で減少傾向にあり、症例の大半は軽症で、自宅安静を行っています。5月中はインフルエンザ（H1N1）およびRSウイルス感染者が多数記録されました。

どちらのウイルスも幼児が感染すると、発熱、鼻水、咳、ゼーゼーとした喘息のような呼吸になり、嘔吐、下痢、脱水症状で受診するケースが多く見られました。

大人では6月のインフルエンザ感染者が30%増加し、発熱、咳、耳炎や副鼻腔炎の患者が多く見られました。

【带状疱疹】

ブラジルでは、コロナ以前（2017年3月～2019年8月）は100万人あたりの带状疱疹患者数は30.2人でしたが、コロナ以後（2020年3～8月）には40.9人と、35.4%も増加しました(International Journal of Infectious Diseases)。77%以上増えた地域もあります。

50歳以上では、新型コロナに感染した人はそうでない人と比較して、感染から6カ月以内の带状疱疹発症率が15%高まり、さらに新型コロナの入院患者では、带状疱疹の発症率が21%高まりました。

そのため、多くの専門医は2022年の新しい帯状疱疹予防接種を推奨しています。

対象者:50歳以上、高リスクグループ

※帯状疱疹ウイルスによる感染された方も可能

※95%の有効率、私立医療でのみ接種可能

【水際対策】

日本では、5月以降全ての入国者に対して、「出国前72時間以内に受けた検査の陰性証明書」及び「ワクチンの接種証明書(3回)」のいずれの提出も求められなくなりました。ブラジルでも6月現在、提出は求められていません。

【鳥インフル】

ブラジル政府は5月22日、野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスが確認されたことを受け、動物衛生に関する180日間の緊急事態を宣言しました。

保健省は人への感染例はないことを報告しています。エスピリトサント州及びリオデジャネイロ州で鳥と接触された38症例の検査結果が陰性であったとのこと、また観察中であることも発表されました。

【ブラジルチーム】



【ジャパニーズヘルプデスク】

医療機関 HOSPITAL SIRIO LIBANES総合病院(RUA DONA ADMA JAFET 91 - CERQUEIRA CESAR-SP
BRASIL CEP: 01308-000 SAO PAULO SP)

営業時間 月曜日～金曜日 9:00～18:00(要予約)※土日祝日休み

HP <https://www.jhelphdesk.jp/hospital/info/hospital-sirio-libanes/>

デスクにいる担当スタッフ



渡辺・リリアン
Lilian Watanabe



HOSPITAL SIRIO LIBANES総合病院



病院1階、入院受付(ブロック)

お問い合わせ/ご連絡先一覧



+ 55 (11) 3939 0890



hcp-latin@prestigein.com

※月曜日～金曜日
8:00～18:00
(土日祝日休み)

海を渡って頑張るあなたが安心して活躍できるように。
海外進出企業向け3in1医療サポート ヘルスケアプログラム

企業向けサービス

赴任者さまが**海外の病院**で治療を受けた場合
日本の健康保険の請求が可能です。

プレステージ・インターナショナル ヘルスケアプログラム

- 24時間日本語対応
- キャッシュレス受診
- 医療費請求サポート
- 緊急搬送サービス
- 医療相談 など充実!

詳しくはこちら